

1. 評価結果概要表

作成日 2008年11月6日

【評価実施概要】

事業所番号	2670700471
法人名	社会福祉法人 七野会
事業所名	グループホーム姉小路
所在地	〒604-8263 京都市中京区堀川通姉小路下ル姉東堀川町76 (電話) 075-257-3867

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上ル海湊町83-1 ひと・まち交流館 京都1階		
訪問調査日	平成20年9月22日	評価確定日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	11 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り
	5 階建ての 3 階 ~ 4 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(60万円) 無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1000 円		

(4) 利用者の概要(9 月 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	5 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.2 歳	最低	74 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉井クリニック、上京病院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

京都の町中の5階建ての建物が生活支援総合センターという名のホストおり、地域に根ざし、地域とのネットワークを構築し、風通しのよい運営をするという法人の方針により、地域住民への切れ目のないサービスを行っているなかのグループホームである。利用者と地域住民や近くの商店会との交流は日常的であり、ホームと家族とは信頼関係ができています。職員にたいしては段階を追った研修が実施され、職員の向上心を刺激し、働きがいをつくっている。生活歴の情報に基づいた馴染みの関係と馴染みの環境づくり、一人ひとりの利用者の介護マニュアルの作成、毎年1泊旅行の実施、ターミナルケアの2例の経験、近くの商店会で利用者が売り手と交流しながら買ってきた食材でつくられる食事等々、グループホームで求められる介護の優れた実践事例が豊かにつくられている。こういったモデルのような実践が行われているのは法人全体のバックアップと管理者・職員が丸となった力の結集である。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価による改善点としては、個人マニュアルの作成、生活歴の充実、栄養士による献立の点検、口腔ケアの充実、運営推進会議に利用者が参加し、家族全員に報告書を送付、トイレをペーパータオルに改善など、非常に積極的に取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員全員が意見を書き、それをもとに話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	要綱を作成、メンバーからは同意書をとっている。利用者、家族、町内会長、民生委員、老人福祉員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、ときに消防署員も参加している。2か月に1回開催され、記録が残されている。この記録は全家族に送付されている。地域からのグループホームへの理解のために、消防署員が参加されるのを歓迎している。運営推進会議はホームにとって地域情報を知る良い機会と捉えている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	春の外出、秋の一泊旅行、忘年会、年度末食事会には家族を招待しており、参加した家族同士の交流が図られている。ホームとの信頼関係のなか、家族は率直な意見を述べており、それにより改善がなされている。一泊旅行を2グループに分けておこなったことに対して意見があり、以後はみんなで行くことに改善した。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	併設のふれあいサロンで地蔵盆を開催し、屋上での大文字鑑賞に招待するなど、町内会との協力関係は豊かである。すぐ近くの三条商店会は毎日の買い物、七夕夜市の参加など、利用者にとって欠かせない社会資源である。地域の中学校のチャレンジ体験、ユースアクションの受け入れをおこなっている。ふだんから通りがかりの人が犬を連れて来訪したり、子どもたちも気軽に訪れる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念	「その人らしく生きる」を支援するという法人の理念をふまえて、開設1年が経過したときに、職員みんながどんなグループホームをつくりたいかということ話し合い、グループホームの理念を策定した。それは「自分らしくあり続ける暮らしを共に築く——共に食べ、働き、眠り、笑い、楽しみ、泣き、わち合いながら……」という非常にわかりやすく、親しみやすく、かつ優れた理念である。これは利用者や家族等に配布するとともに、各ユニットの居間に掲げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み	毎年度当初には職員が上記の理念の振り返りをし、毎日の業務の核としている。2カ月という期間の派遣職員にも、理念の啓発をおこない、「お世話をする人とされる人」という関係にならないように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい	併設のふれあいサロンで地蔵盆やフリーマーケットを開催し、屋上での大文字鑑賞に地域の人を招待するなど、地域との協力関係は豊かである。すぐ近くの三条商店会は毎日の買い物、七夕夜市の参加など、利用者にとって欠かせない社会資源である。地域の中学校のチャレンジ体験、ユースアクションの受け入れをおこなっている。ふだんから通りがかりの人が犬を連れて来訪したり、子どもたちが遊びに来たりと、地域に愛されるホームとなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用	今回の自己評価は職員全員が意見を書き、それをもとに話し合っている。前回の評価による改善点としては、個人マニュアルの作成、生活歴の充実、栄養士による献立の点検、口腔ケアの充実、運営推進会議に利用者が参加し、家族全員に報告書を送付、トイレをペーパータオルに改善など、非常に積極的に取り組まれている。		
		○運営推進会議を活かした取り組み	要綱を作成、メンバーからは同意書をとっている。利用者、家族、町内会長、民生委員、老人福祉員、地域包括支援センター職員等がメンバーとなり、ときに消防署員も参加している。2カ月に1回開催され、記録が残されている。この記録は全家族に送付されている。地域からのグループホームへの理解のために、消防署員が参加されるのを歓迎している。運営推進会議は事業所にとって地域情報を知る良い機会と捉えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域での民生委員の集会には、講師として参加し、地域貢献している。ホームの専門性をもとに地域貢献したいと考えているが、市区町村担当者とはなかなか連携がとりにくい。	○	市や区が主催者となって、地域住民への認知症理解のための取り組み、たとえば介護相談、介護教室等が開催され、当グループホームの専門性が貢献できるような機会があるように、働きかけることが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会は毎日来る人も含めて多く、3カ月に1回の介護計画見直しの際には全家族が来訪し、カンファレンスに参加している。面会時もふくめてふだんから情報交換するとともに、行事案内と担当職員からの一筆便り、預かり金報告などを郵送している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	春の外出、秋の一泊旅行、忘年会、年度末食事会には家族を招待しており、参加した家族同士の交流が図られている。ホームとの信頼関係のなか、家族は率直な意見を述べており、改善がなされている。一泊旅行を2グループに分けておこなったことに対して意見があり、以後はみんなで行くことに改善した。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正規職員はさまざまな経験をつんでほしいという法人の方針があり、本人の希望をふまえて異動があるが、1事業所で3年以上で動くことはないように配慮されている。契約社員は異動がない。異動の際は新旧が同時勤務しており、利用者に説明し、お別れパーティをしている。異動後も遊びに来る職員も多い。職員が意欲をもって働けるように一定の責任を持たせることや意見の言いやすい雰囲気をつくること、懇親会の開催などに取り組んでおり、職員はチームワーク良く働いており、安易な退職はない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の学習教育部が1年目研修、2年目研修、3年目研修、中堅研修、役職者研修と段階を踏んだ研修計画を作成し、実施している。外部研修は情報を提供し、職員からの積極的な受講希望に対応している。職員同士の勉強会も行われ、同種会議として法人内の3グループホームが交流研修をしている。資格取得には勉強会などで、また一人ひとりの職員の課題は年2回の管理者との話し合いで支援されている。これらはすべて職員の向上心を刺激し、働きがいにつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症グループホーム協会、京都府認知症グループホーム協議会に加盟し、交流研修に参加している。3年目研修には他施設との交換研修が予定されており、職員自らが相手先の施設を選択し、交流研修している。他のグループホームから職員が学んだことを生かして、運営の改善に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始の際には、相性の合う人の横に座ってもらったり、デイサービスに友だちがいる場合には出かけていって交流をはかったり、家族との電話を支援したりして、利用開始時のリロケーションダメージを防ぐ工夫をしている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の居室で2人でテレビを見ている人もおり、ターミナルのときには他の利用者が何度もベッドを訪れ、手を握っているなど、利用者同士のいたわりあい、励ましあい、がすすむように職員は支援している。職員の結婚式に利用者が参加するなど、利用者と職員は「共に暮らす人」という関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用申込があると、管理者とケアマネジャーが訪問面接し、本人や家族から意向や生活情報を聴取している。東京センター方式でアセスメントをしているが、家族等からの情報が少ないことに苦慮している。生活歴が収集されており、利用が始まってからも職員は聞いたことを書きとめ、情報の補充に努めている。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントの後、本人や家族の意向を考慮してケアマネジャーが介護計画の原案を作成し、職員会議で話し合い、確定している。アセスメント情報を反映した介護計画であり、「馴染みの関係、馴染みの環境」をつくることを重視した介護計画になっている。また一人ひとりの利用者の介護マニュアルが作成され、職員に共有化されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護実施記録とともに、介護計画については毎月職員会議においてモニタリングをしている。3か月ごとに利用者、家族とともに介護計画の見直しをおこなっている。ケース記録は時間を追って書かれているが、簡単な内容である。	○	ケース記録は介護計画にそって、その内容を記録し、その積み重ねが介護計画の評価につながるように、職員の観察とともに考察を書くことが求められる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームのある施設は生活支援総合センターであり、1階にはふれあいサロン(喫茶やサークル活動の場)、2階はデイサービス、5階はケアハウスとなっており、グループホームもショート利用を受け入れている。施設として配食活動も行っており、全体として非常に多彩な活動に取り組んでいる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は月2回の往診のほか、24時間オンコールの連携がある。入居前からの主治医にかかっている利用者もいるが、サマリーなどにより医師との情報交換は万全である。協力医にも利用者個々のかかりつけ医にも、家族の事情によっては通院同行している。歯科医は近くにあり、同行したり、往診もある。認知症専門医との連携もきちっととれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族が希望した場合はホームでの看取りをおこなうとした『ターミナルケアに関する指針』を作成し、3か月ごとに利用者や家族の意向を聴いている。希望された場合は同意書をとっている。ほとんどの家族が希望している。医師や看護師との連携はできており、職員は不安はあるが、研修や実体験で力をつけてきている。いままでに2例の感動的な経験がある。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーには十分配慮しており、トイレのドアや居室のドアが開けばなしということはない。職員が居室に入る際もきちんとノックしている。トイレ誘導の際の声かけにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食は7時半くらい、夕食は6時くらいであるが、朝起きてこない人を無理に起こすことはない。夕食後すぐに就寝する人もいるが、遅くまで起きている人もいる。毎朝新聞を取り込み、読んでニュースを話題にする利用者もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたいものを聞いたり、本を見て選んでもらったりして献立をたて、地の利を生かして毎日2回三条商店会へ食材の買い物に出かけている。店で見ると献立が決まることもある。食べ慣れた、季節感のある、和風献立である。お好み焼きや焼きそば、鍋料理なども楽しんでいる。ホテルのレストラン、町のうどん屋さん等々に出かけることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯は午後から夕方であり、毎日入りたい希望にも対応している。マンツーマンの同性介助を行っている。ゆず湯やしょうぶ湯は利用者に喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	居室の掃除を職員とともにいたり、自分のハンカチや下着を洗っている利用者もいる。調理の下ごしらえ、味付け、食器洗い等が支援されている。プランターの野菜や花の手入れ、ホーム内に花を生ける、配食を近所の人に届けるなどの役割を利用者は果たしている。刺し子、絵、書、歌、ペーパークラフト、絵手紙、コンサートなどの楽しみが取り組まれている。ピアノを弾く利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は毎日のように、近くに散歩に行ったり、商店会に買い物に行ったり、地域のお地藏さまを拝みに行ったりしている。春の花見、植物園、祇園祭り見物、もみじ狩り、初詣など、季節ごとのドライブにも出かけている。一泊旅行は毎年実施しており、昨年は神戸のしあわせ村に泊まって須磨海浜水族館へ行った。利用者の個別外出としては毎週教会に行っていた人をお連れしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からすぐに施設内に入ることができ、エレベーターにもロックはない。ホームは3階と4階であるが、ベランダにも登ることができ、非常階段から外部につながっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画があり、消火器、感知器、通報機等が完備している。スプリンクラーを設置の予定である。夜間想定避難訓練を含めて、年2回の避難訓練をおこなっている。防火管理者と備蓄の準備ができています。地域との防災協定書の締結が期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの利用者の食事摂取量の記録が残されている。水分摂取量は要注意の人の記録をとっている。献立のカロリー値や栄養バランスは法人内の管理栄養士に点検してもらっており、記録に残している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の入り口には暖簾が下り、ホールの玄関は格子戸、開くと居間兼食堂である。廊下の両側に居室とトイレ、浴室が並んでいる。居室は板戸と障子戸になっており、画一的な戸が並ぶことなく、認知症の人への配慮がなされている。廊下には畳を敷いた座るところやソファ、椅子、ベンチなどが置かれ、1人や友だちとの居場所になっている。狭いがベランダにはプランターが並べられ、野菜や花が育てられており、利用者の大きな楽しみになっている。屋上には花壇や菜園があり、京都の町並みや大文字の送り火を見ることができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は板戸を開けると洋室、障子を開けると畳の部屋になっており、利用者が選択している。ベッド使用の人が多いが、ベッドの置き方も利用者それぞれであり、大きな洋服たんす、整理たんす、机、椅子、昔ながらの鏡台、衣装かけなど使い慣れたものが持ち込まれている。家族や孫の写真をいっぱい貼っている人や位牌に花を供えている人など、それぞれ個性的な居室となっている。職員が利用者と一緒に住んでいた家に行ってもってきた家具もある。		